

[特集]

少子高齢化時代の企業経営

2006年以降、日本の人口は減少傾向に転じると予測されている。ある推計によれば、現在約1億2000万人の人口が、2050年には約1億人に減少し、逆に65歳以上の人口は、2050年には全体の3分の1強にまで増加するといわれる。いや、たとえ数字を知らなくても、街や身近で子供たちの姿が減り、高齢者が増えていることを実感しない人はいないだろう。

日本はもちろん、世界市場にも例のない「少子高齢化」の時代は、企業経営の現場にいかなる変化、影響をもたらすのか。誰も経験したことがない社会環境であるだけに、とっさに想像がつかないかもしれない。しかし、現実を着々と進行している。その環境に適応できなければ、企業は成長も生存もおぼつかない。

本号の特集では、「少子高齢化」をキーワードとして、高齢者（エルダー世代）を中心とする消費市場の動向、サービス産業の動向、そして製造企業における実際の取り組みを紹介する。

C O N T E N T S

- 少子高齢社会とエルダー市場
—グローバルな変化と地域における機会—
阪本 節郎 ……P4～P7
- 少子高齢化社会のサービス産業
原澤 謹吾 ……P8～P11
- 少子高齢化社会とものづくり
前川製作所の場合
株式会社前川製作所 広報室 ……P12～P15